



げんきカエル



こども病院ニュースレター

「県立こども病院には、
必要な時にはいつでも入院できます。」

副院長兼診療部長(小児外科担当)

西島 栄治



100%の入院応需を目標に

「県立こども病院には、必要な時にはいつでも入院できます。」と言い切れるようにしたいと努力を重ねています。つまり、100%の入院応需を目指して病床の運用を工夫しています。これが、兵庫県による財政補強を受けている県立病院のもっとも基本的な任務と考えています。ただし、産科病棟とNICUでは言葉どおりの100%の応需は困難ですので、兵庫県の周産期医療システム全体の協力体制の中で100%の応需をします。

100%入院応需とは、入院の必要な患児で、ベッドがないために入院できない患児はいない、という状況です。県立こども病院に入院が必要となった場合には、なんとかしてでも入院できるように院内の病床運用を調整する仕組みです。緊急入院時には、現に、各病棟看護長の主導で全病棟が科別の枠を取り去って、必要なベッドを確保するように調整しています。

平成20年4月以降の全病床数は266床で、病床利用率は84%~92%、平均在院日数15日前後です。あらゆる内科系・外科系疾患児に対応する一般の小児病棟以外に、小児ICU病棟、ICU(循環管理を中心とする濃厚治療病棟)、HCU(呼吸管理を中心とする濃厚治療病棟)、周産期母子に対する全県の総合周産期医療施設として周産期医療センター(MFICU、NICU)と、外傷を含む小児救急医療に対する全県の拠点病院(三次救急施設)として小児救急医療センターを運用しています。感染症児用の陰圧病室や骨髄移植治療用のBCR(無菌病室)も設置しています。



県立こども病院へのアクセス

- ◆平日の通常時間帯では、各診療科の担当医あてに直接に入院の依頼の電話をください。そのまま、各診療科医師を受診したのちに入院病棟が決まる場合と、いったんは小児救急医療センターの担当小児科医を受診して小児救急医療センターに入院する場合とがあります。
- ◆平日の時間外や休祭日の場合には、産科と新生児科以外は、いったんは小児救急医療センターの担当小児科医を受診することになります。産科と新生児科への依頼の場合は、時間外や休祭日の場合でも、直接に産科と新生児科の担当医師に連絡してください。直接に担当科病棟に入院することになります。また、兵庫県周産期システムに参加している病院とも連携して、適切な医療機関にアクセスできる工夫もしています。
- ◆どの時間帯であっても、もし各診療科の担当医と連絡がつかない場合には、小児救急医療センターの担当小児科医に連絡してください。その後は院内で調整いたします。
- ◆必要な場合にはドクターカーで患児を搬送することも可能です。各診療科の担当医と協議してください。



機能拡大する当院の医療分野

- 小児期の透析医療・血液浄化療法、先天性心疾患に対するカテーテル治療、小児期の各臓器外傷に対する総合治療、乳児の閉塞性睡眠時無呼吸症候群の診断と治療、赤あざと青あざの治療、消化管・気道・尿路の内視鏡検査と治療、全身麻酔によるMRI検査、など
- 胃噴門形成術や胃瘻造設術、誤嚥に対する喉頭気管分離手術や気管切開術など重症の心身障害児の外科治療、胃瘻作製前後の地域連携バスの運用、など
- 特殊な画像検査の場合には、各種の記録媒体を活用して、紹介もとの先生方まで安全かつ確実に検査結果を配信します。

